

[様式 2]

御提案書	
技術分野	① 汚染水貯蔵(タンク等)
御提案件名	可搬式汚染水タンクモジュール・システム
御提案者	上原 正勝
<p>1. 技術等の概要(特徴、仕様、性能、保有者等)</p> <p>可搬式汚染水タンクモジュールは、汚染水の敷地外搬出が可能であるとともに全溶接型タンクとして漏れのリスクが極めて少なく、漏れを監視できること、現地据え付けが短期間に行えること等を特徴とした放射性汚染水貯水タンクである。</p> <p>①陸上及び海上輸送可搬が可能なコンテナ寸法に合わせ、外径3m・長さ11mの円筒形鋼管の両端に塞ぎ板を水密溶接で固着した汚染水タンク、この1基の単位を汚染水タンクの「基本ユニット」として、ヘッダータンク(共通部であるのでヘッダーと呼称。)1基の両側に接続する6基の基本ユニット(分岐タンクと称する。)で構成する7基のタンク群を1つの「モジュール」として、標準貯水容積約438トン(438t)を溜める貯水タンク。</p> <p>②3つのモジュールを配管接続することにより標準貯水量計1314トンを貯水するタンクシステム。1314トンのタンクシステムの所要スペースは約40m×32mである。</p> <p>② 岐タンク(標準貯水量とタンク自重で約74トン)は、台車を設けることにより可搬式として発電所構内を搬送でき、また港湾まで搬送し、小型船に分岐タンクを船積みできる。</p>	
<p>船による搬出</p>	
<p>図1: 可搬式汚染水タンクモジュール・システム</p>	
<p>図2: 可搬式汚染水タンクモジュール外形</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況: 大口径鋼管は、原子力発電所及び火力発電所に使用されている循環水管の実績があり、基本的に循環水管に適用されている口径を使用しタンクとしたものであるから、実施設計で解決できるものばかりであり実用化はすぐに可能である。 ・開発・実用化に向けた課題・留意点: 可搬式として列車に標準的に使用されている台車を使用するので、特に問題はない。発電所敷地内をレール敷設することになるが、レール敷設はスペース確保が必要であり少しルート調査に時間がかかるが、これは当該タンクを設置してからの施工でよいと考える。 ・その他(特許等を保有している場合の参照情報等): 特になし。 	